

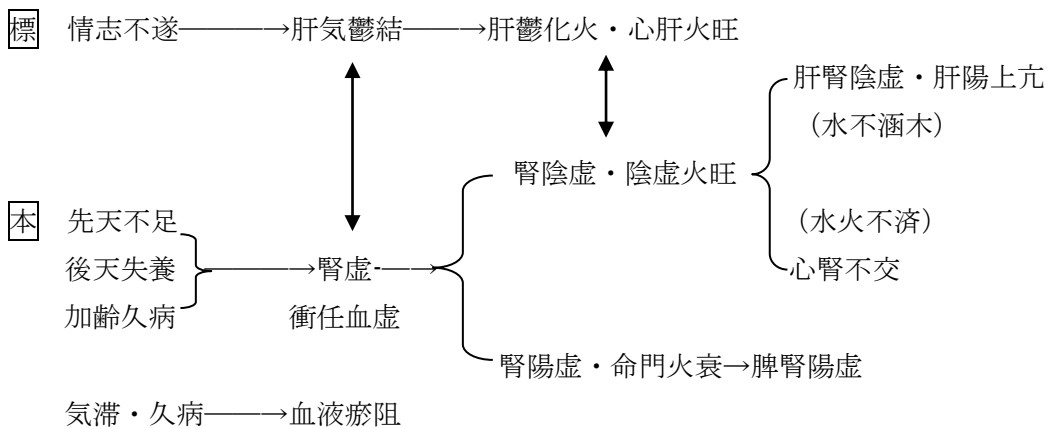
更年期障害症候群の弁証論治

高橋楊子・上海中医薬大学附属日本校

更年期障害症候群とは、閉経前後の卵巣機能の衰えによってホルモンや自律神経の変調を中心とする身体的や精神的に現れる多種多様な症状を指す。

「女子は七歳にして、腎気盛し…、二七にして、天癸至り、任脈通じ、太衝の脈盛し、月事時を以って下る。故に子あり、…五七にして、陽明の脈衰え、面初めて焦れ、髪初めて随つ。六七にして、三陽の脈上に衰え、面皆焦れ、髪初めて白し。七七にして、任脈虚し、太衝の脈衰少し、天癸竭き、地道通ぜず、故に形壞えて子なきなり」『素問』上古天真論

一. 病因病機 (本虚標実)



二. 弁証論治

治療原則「急則治其標、緩則治其本」

本治→補腎・補衝任・補血。

標治→疏肝理気・清肝潜陽・清心安神・活血化瘀

(一) 虚証

1. 肝腎陰虚・陰虚陽亢

症状：のぼせ・ほてり・五心煩熱・顔面の紅潮・カーッと熱くなり汗をかく・盗汗・イライラ・怒りっぽい・めまい・ふらつき・耳鳴り・失眠多夢・倦怠無力・腰膝・痛・月経周期が短くて経血量不定・不正出血・咽乾口渴・尿黄便乾。舌紅裂紋・少苔剥苔無苔、脈細数弦、尺弱。

治則：滋補肝腎・養陰潜陽

処方：左帰飲・六味地黄丸・知柏地黄丸・杞菊地黄丸・耳聾左磁丸など+当芍散・加味逍

六味地黄丸：熟地黄・山茱萸・山薬・澤瀉・牡丹皮・茯苓。滋陰補腎。

左帰飲：熟地黄・山茱萸・山薬・枸杞子・茯苓・甘草。養陰補腎。

知柏地黄丸：六味地黄丸+知母・黄柏。滋陰降火。

杞菊地黄丸：六味地黄丸＋枸杞子・菊花。滋補肝腎・養血明目。

耳聾左慈丸：六味地黄丸＋磁石・柴胡。滋陰通竅・聰耳。

加減 **二至丸**：女貞子・旱蓮草。平補肝腎・滋陰補血止血。

黃連阿膠湯：黃連・黃芩・阿膠・芍藥・鷄子黃。滋腎陰・清心火・交通心腎。

天王補心丹：生地黄・當歸・天門冬・麥門冬・柏子仁・酸棗仁・五味子・人參・玄參・丹參・茯苓・遠志・桔梗。滋陰養血・養心安神。

當歸芍藥散：當歸・芍藥・川窮・白朮・茯苓・澤瀉。養血調經・健脾利濕。

2. 脾腎陽虛・命門火衰

症状：顔白或は顔黒、手足冷え、耳鳴り、腰膝冷痛、倦怠感、脱力感、むくみ、軟便下痢、頻尿夜間尿、月経周期が遅れる、経血量が少ない、舌淡胖大齒痕、苔白、脈沈細尺弱。

治則：補腎壯陽・温経散寒

処方：右帰飲・八味地黄丸・牛車腎気丸など＋当芍散

八味地黄丸：附子・肉桂・熟地黄・山茱萸・山薬・澤瀉・牡丹皮・茯苓。温補腎陽。

張景岳：“善補陽者、必于陰中求陽、則陽得陰助而生化無窮”

右帰飲：附子・肉桂・熟地黄・山茱萸・山薬・枸杞子・杜仲・甘草。温腎填精。

牛車腎気丸：八味地黄丸＋牛膝・車前子。温補腎陽・利水消腫。

加減 **温経湯**：當歸・芍藥・川窮・牡丹皮・桂枝・呉茱萸・人參・半夏・阿膠・麥門冬・生姜・甘草。温経散寒・養血活血・止血。

二仙湯：仙茅・仙靈脾・當歸・巴戟天・知母・黃柏。温腎陽、補衝任、瀉腎火。

(二) 実証

肝気鬱結・肝鬱化火

症状：イライラ、怒りっぽい、或は憂鬱、不安感、顔面赤い、カーッと熱くなり汗をかく、目赤口苦、咽喉異物感、肩こり、偏頭痛、胸脇脹痛、不眠多夢、月経不順、月経痛、舌辺紅、脈弦または弦数。

治則：疎肝理気・清熱安神・理気化痰

処方：加味逍遙散・柴胡加竜骨牡蛎湯・半夏厚朴湯など

加味逍遙散：柴胡・薄荷・白芍・當歸・茯苓・白朮・甘草・生姜・牡丹皮・山梔子。疎肝理気、清熱涼血。

柴胡加竜骨牡蛎湯：柴胡・黄芩・半夏・生姜・人參・大棗・茯苓・桂枝・竜骨・牡蛎・大黃。和解少陽・重鎮安神。

半夏厚朴湯：半夏・厚朴・紫蘇葉・茯苓・生姜。理気解鬱・化痰散結・降逆。

加減 **桂枝茯苓丸**：桃仁・牡丹皮・赤芍・桂枝・茯苓。活血化癥・温経消癥。

血府逐瘀湯：桃紅四物湯＋牛膝・柴胡・枳殼・桔梗・甘草。活血逐瘀・理気止痛。

冠心II号方加減：丹參・紅花・赤芍・川芎・木香・香附子。活血化癥・理気止痛。

附：臟燥証

症状：不安、怯えやすい、物事に対して悲観的な考え方をもちやすい、ちょっとしたことで涙が出て泣きやすい、甚だしくなると、異常な言動を取ることがある、生あくびをよくする、寝つきが悪い、眠りが浅い、舌淡白、脈細弦。

治則：養心安神

処方：甘麦大棗湯・桂枝加竜骨牡蠣湯

甘麦大棗湯：浮小麦・大棗・甘草。養心安神・和中緩急

桂枝加竜骨牡蠣湯：桂枝・芍薬・生姜・大棗・竜骨・牡蠣・甘草。調和營衛・固精安神

【症例検討】

患者：Iさん 女性 57歳 主婦

主訴：のぼせ、ほてり、カーッと熱くなり汗をかく、動悸、肩や首が凝る。

現病歴：40代前半に突然生理が1ヶ月間長引き止まれなかったため、婦人科に行き、ホルモン注射で生理を止めた。その後、何度も同じ症状が表われるたび注射を受けた。47歳に閉経と共にほてり、のぼせが表われ、漢方エキス（処方名不明）をもらって服用していたが、改善せず味にも耐えず治療を中止した。以後、ホットフラッシュがだんだんひどくなり、4年前から動悸、寝付けない、夕方になると頭がもやもやして熱くなり、血圧も高くなってきた症状が表われた。病院での検査では異常が見られず2種類の安定剤を出されて服用し始めて寝付は改善したが、他の症状の改善はなかったため、相談に来た。

望診：やや痩せ、顔白、頬がやや赤い（30分の話し間に顔に潮紅が表われ、髪の毛の生え際に汗が滲んできた）。髪の毛は薄く白髪がやや多い。

問診：のぼせ、ほてり、カーッと熱くなり汗をかく症状が1日10数回あらわれ、時にはドキドキするような動悸も伴う。夕方以後さらに酷くなり血圧が高くなったこともよくある。イライラ、不安、慢性肩や首が凝り、耳鳴り、食欲と二便は普通、時に胃がムカムカする、足が冷える。安定剤で寝つきはいいが早朝覚醒がある。（飲酒と喫煙無し。犬の散歩を毎朝している）

舌診：紅舌、舌辺瘀斑、薄白苔。

脈診：沈細脈、尺弱。

西洋医学の診断：更年期障害症候群。

弁証：

治則：

おすすめ処方：

【まとめ】

1. 更年期障害症候群は、本虚標実の病気で、本虚は主に腎虚、衝任血虚を中心として、標実には主に肝鬱・肝火心火・瘀血を主とする。治療は“急則治其標、緩則治其本”に従っ

て本治か標治か標本同治が行われる

2. 心理的なケア・針灸・マッサージ・食養生の併用
3. ストレスを溜めないように、うまく発散する方法
4. 毎日運動して、血流を改善する